



9 月度 議員懇談会



挨拶する八木会頭

9月1日午前11時より福井商工会議所ビルにて9月度議員懇談会を開催した。開会にあたり八木会頭は先月開催した「第72回福井フェニックスまつり・民踊大会」（詳細は14ページ参照）について報告。34チーム・約100名の増加となったほか、西武福井店屋上にて開催した大交流会は満席を超える盛況ぶりとなった。「来年はさらに規模を拡大し、まち全体を使って踊りや懇親会もたくさんの方に参加いただけるイベントとして発展させたい」と意気込んだ。

続いて、8月19日に記者発表した福井アリーナ事業計画について、建設費高騰により計画見直しを余儀なくされたが、総事業費150億円（国・県・市交付金60億円、民間資金調達90億円）で方向性を固めことを報告。八木会頭は建設にあたって企業版ふるさと納税と寄付への協力を参加者に要請した。さらに、福井駅前商業者や各スポーツ競技団体からは、アリーナの早期建設を望む要望が出てきていることも紹介し、「地域全体の機運を高めることが非常に重要。アリーナの実現を後押しする声を積極的に発信していただくようお願いしたい」と議員に呼びかけた。

その後、先に開催された常議員会で、議員選挙に伴う3号議員の選任並びに2号議員の部会割当数が承認されたことが報告された。

続く卓話では、「最近の経済・物価情勢と金融政策」と題し、日本銀行の草野雄司福井事務所長より説明が行われた。草野氏はIMFの世界経済見通しや米国の関税政策の影響の分析結果などに触れながら、国内経済の現状と先行きについて説明。

経済の先行きは、海外経済の減速から輸出が下押しされ、一時的に成長のペースは鈍化が見込まれるものの、その後は海外経済の回復に伴い成長率は高まると予測。一方で、北陸地域の設備投資は2025年度に上向く予定だが「一部企業に偏りがある可能性があり、慎重に注視する必要がある」とした。

物価の先行きでは、輸入物価のマイナス転化などに伴い、基調的な上昇率は一時伸びが鈍化するものの、成長率の高まりと人手不足から上昇に転じ、日本銀行が「物価安定の目標」として掲げている消費者物価の前年比上昇率「2%」に近づくことと分析した。

その後、県都みらい創造委員会の梅田憲一委員長より、福井アリーナ（仮称）事業計画について説明があつた。

た。また、デジタル×イノベーション委員会の清川肇委員長からは、今年6月に実施した「欧州デジタルイノベーション視察」について報告が行われた（詳細は8月号参照）。

最後に、「ふるさと納税」に関する協力をお願いについて、寺川直輝地域振興部長より説明があつた。

【議員異動】（敬称略）

京福バス(株)

(旧) 岩本 裕夫 (社長)

(新) 長尾 拓昭 (社長)

福井県民生活協同組合

(旧) 松宮 幹雄 (理事長)

(新) 檜原 弘樹 (理事長)

3号議員 選任企業（15社・順不同）

(株)福井銀行
(株)福井新聞社
福井テレビジョン放送(株)
(株)北陸銀行福井地区事業部
サカイオーベックス(株)
セーレン(株)
清川メッキ工業(株)
日華化学(株)
フクビ化学工業(株)
(株)熊谷組北陸支店
北陸電力(株)福井支店
三谷商事(株)
三谷セキサン(株)
平野純薬(株)

7.30

外国人旅行者の心をつかむ 体験型商品の作り方セミナー

担当／新幹線・都市再生推進課



講師／(株)JTB 総合研究所
研究理事 山下 真輝 氏
参加人数／25 氏

インバウンド需要の高まりを受け、訪日旅行者の最新動向と北陸エリアの可能性や課題を解説するセミナーを開催。講師の山下氏は、福井県のターゲット旅行者像を「Authentic Seekers（本質探求者）」と定義し、地域の日常を高付加価値な体験に変えるための視点や成功事例について情報共有を行った。受講者はインバウンド誘客への理解を深め、地域資源を活かした体験型商品の作り方を学んだ。

また、当所から「ふくのねインバウンド向け体験商品造成支援プログラム」、福井県インバウンド交流課から「海外OTA活用事業」を紹介し、参画事業者を募った。

8.4・5

大阪・関西万博

「ふくのね出張PR」ブース出展

担当／新幹線・都市再生推進課



会場／大阪・関西万博
フェスティバルステーション
参加人数／120 名（来場者：520 名）

大阪・関西万博会場内のイベントスペース「フェスティバルステーション」にて、県内の体験型観光コンテンツを紹介するウェブサイト「ふくのね」のPRブースを出展した。

8月4日は「草木染工房 風雅」による草木染されたハンカチやコースターなどへの色挿し体験、5日は「バーチャルスカイ」によるVRゴーグルを使った東尋坊のバーチャル飛行体験を実施。参加者からは、「実際に現地で体験してみたい」と好評の声が挙がった。さらに、参加者には福井市内ホテルのペア宿泊券や「ふくのね」で紹介するコンテンツの体験無料券などを抽選でプレゼントし、「ふくのね」の認知度向上と福井への誘客促進につなげた。

8.6・7

新入社員

フォロアアップ研修

担当／人材確保支援センター



講師／(株)ウィズネス
代表取締役 本田 妃世 氏
参加人数／93 名
参加企業／50 社

新入社員及び、入社2、3年目の若手社員を主な対象とした研修を実施した。1日目は基本的なビジネスマナーの再確認、電話対応のほか、モチベーション維持の心構えについて解説。2日目は仕事の優先順位づけ方や、クレーム等緊急事態への対応法、上司とのコミュニケーション（報・連・相）についてグループワークを交えながら学んだ。多くの受講者が参加する中でグループ討議も活発に行われ、受講者からは「仕事の優先順位づけ方は職場では教えてもらえず、非常に参考となる内容だった」「上司への報告タイミングについて改めて学び直すことができた」などの声があり、新たな気づきを得る機会となった。

8.27

後継者育成塾

担当／事業承継・引継ぎ支援センター



講師／FSAコンサルティング(株)
代表取締役 谷川 俊太郎 氏
参加人数／15 名
参加企業／14 社

事業承継を予定している後継者等を対象に、経営に必要な基礎知識を学ぶ「後継者育成塾」の第1回目を開催。まず、事業承継の現状や構成要素、経営理念の明確化の重要性等について、講師の谷川氏が解説した。次に、自身の経営に対する想いを整理するため、マンダラチャートを活用したワークを実践。現在の理念を見つめ直し、理想とする経営やビジョンを明確にするため、各自が真剣に取り組んでいた。また、グループワークを通して、受講者同士で理念の共有や交流も行われた。今後は5回の研修にわたって、会計や労務、事業承継計画の策定など、実践的な経営スキルを習得していく。

8.19

福井アリーナ（仮称）事業計画を公表

担当／新幹線・都市再生推進課

福井商工会議所は、福井アリーナ（仮称）の整備運営に関する事業計画案を発表した。記者発表の席で八木会頭は、建設費高騰などの課題に触れつつ、「人口減少が進む社会において、交流人口の拡大は地域の活力を維持するために欠かせない。官民が一体となってオール福井でアリーナ計画の推進に挑戦し、県都のにぎわいを創生する。現状にとどまらず挑戦することが、福井の未来にとって不可欠である」と、その意義と決意を力強く語った。

計画されているアリーナは、JR福井駅から徒歩8分という利便性の高い場所に建設される予定。プロスポーツや大規模なコンサート、さらにはMICE（展示会、全国規模の会議）など、多目的施設として、県内外から多くの人々を惹きつけることが期待される。

事業費は150億円を想定しており、国、県、市からの補助金に加え、民間からの投資や知恵も活かす官民連携の手法で進める。事業を推進するため、当所が主体となって整備会社を設立し、オール福井体制でこの一大プロジェクトに臨む。令和10年秋頃の完成を予定し、県都の新たなシンボルとして、若者たちが福井に誇りと夢を持てるような未来の創造に貢献していく。



事業計画を説明する八木会頭（右）、梅田委員長



福井アリーナ（外観）

Chamber calendar 会議所カレンダー

August

- 2日 第72回福井フェニックスまつり（民踊大会）
- 6日 新入社員フォローアップ研修（～7日）
- 20日 副業・兼業人材活用セミナー
- 26日 第51回合同プレス発表会
- 27日 後継者育成塾
- 29日 商談力向上セミナー

September

- 1日 常議員会・議員懇談会
- 4日 商品磨き上げセミナー
- 5日 中堅社員研修（リーダーシップ&フォローアップ養成編）
- 9日 原子力人材育成研修 作業安全に関する関連法令
- 10日 経営者・経営幹部のための新事業構想プロジェクト研究（2026/3/4）
- 11日 原子力人材育成研修 社会人向け入門研修
- 18日 女性起業家応援セミナー
- 18日 ビジネスパーソンのための文化芸術セミナー
- 30日 女性ウェルビーイング交流会

October

- 1日 常議員会・議員懇談会
- 3日 韓国語講座入門編（～12/17）
- 7日 資金調達×資金繰り 徹底攻略塾（・17日）
- 10日 脱炭素社会の実現に向けた透明太陽電池の可能性
- 10日 クラウド会計の基礎セミナー
- 29日 福井みやげコンテスト
- 30日 価格適正化ゼミナール（～31日）